

2022年4月11日(月)

老球の細道664号

### チームビルディングを考える

会津バスケットボール協会 室井 富仁

小、中、高校の新年度がスタートした。この時期になると毎年思い出されるのは、新しい学校に赴任した時の緊張と希望に満ちた想いである。久しぶりに気温20度近くのポカポカ陽気の中をウォーキングした折、農道から見える白髪の磐梯山と飯豊山を見ながら今まで赴任した学校を順々に思い出しながら歩いた。

新採用の原町高校は男女共学の大規模校であり、私のような若造が通用するかどうか不安であったが個性的な生徒に恵まれ、優勝はできなかったが充実した新採用7年間を送ることができた。次に勤務した新地高校はバスケットボール部がなくてどのように過ごすか不安であったが、結局がまんできず3年目にバスケット部を創設してしまった。3番目はようやく地元に戻ることができたが初めての女子高勤務。これまた不安であったが、部活動の盛んな学校だったので思い切り部活動とクラス担任を楽しむことができた。4番目は母校会津高校。女子校から男子校でまたまた不安であったが、OB会や保護者会の援助によってダイナミックな部活動ができた。5番目は坂下高校で生徒数が少なく、狭い体育館でまともな練習ができるか不安であったが、絶対強くできるとむしろ燃えた。最後は葵高校だった。退職まで優勝できるか不安だったが、情熱を絶やすことなく退職を迎えて現在に至る。

色々な学校を渡り歩いてきたが、どこに行っても楽しみだったのは新年度スタートのチームビルディングに費やす時間であった。新しい生徒たちと出会い、練習する環境を考慮しながら、不可能を可能にする熱意を持ってあれこれ考えるのは至福の一時である。

『最強を目指すチームビルディング』〈ジェフ・ジャンセン著：大修館〉にチャンピオンチームに備わる「7C」ということが書いてある。

- ①共通目標 (Common Goal)：最終到達点を共有する。
- ②コミットメント (Commitment)：決意を持って取り組める。
- ③特別な役割 (Complementary Roles)：足りないところを誰かが補う。
- ④明瞭なコミュニケーション (Clear Communication)：透明性のある意思疎通ができる。
- ⑤前向きな対立 (Constructive Conflict)：建設的に対立を収束。
- ⑥選手の結束 (Cohesion)：お互いにリスペクトしながらまとまる。
- ⑦信頼されるコーチング (Credible Coaching)：最後はコーチに委ねる。

チーム創りから得られる最も重要なものは「勝利」とそのプロセスにおける「満足感」である。コーチ、選手共々「バスケットボールをやっていてよかった」「バスケットボールをやっていて人間的に成長できた」と思えるようなチームビルディングをスタートしてほしい。米国の自動車王ヘンリー・フォード曰はく、「ひとつになることがスタート、それを維持することが前進、一体となって仕事をするのが成功」。